

自作教具の活用事例

<p>【作品名】 回らずしに行こう</p>	<p>【学校名】 日立市立大久保小学校</p>
<p>【活用できる領域・教科等】 生活単元学習・算数 (聞く・話すスキル学習・コミュニケーションの学習・数の計算)</p>	<p>【制作者名】 朝日 道子</p>
<p>【制作の意図】 回らずし店の模擬体験を通して、代金やおつりの操作活動や話し合い活動に参加することで、身近な食生活や金銭の使い方に興味をもち、友達とのコミュニケーションを図ることができる。</p>	<p>【使用の方法】 5～10人で行う。回らずし店の店員とお客に分かれて活動する。お客が好みの寿司をとりながら回る。児童が好きな寿司を取りに行き、テーブルで食べる。食べ終えた後は、店員が、皿の縁の色を見て、合計代金を告げ、代金を受け取る。客は、代金を払って、おつりをもらう。</p>
<p>【制作上の工夫】 寿司を紙粘土で作り、身近にあるおもちゃを利用したり、絵の具で着色することで、色彩感覚や手先の巧緻性を養うことができるようにした。 紙皿の縁の色を変えることで、食べた寿司の値段を計算できるようにした。</p>	<p>【見取り図】</p>  <p>店員役は、案内係やレジ係等、係を交互に分担し、活動の場を広げることができる。</p>
<p>【写真】</p> 	<p>【使用効果と応用発展】 知的学級1・2組で協力し、交流活動で活用できる。 金銭の取り扱い、おつりの計算等の操作活動を算数の学習につなげることができる。</p>
<p>【材料・材質・部品等】 紙粘土、絵の具、紙皿 レシート用紙、メニュー、お箸 紙コップ、電卓、お金（算数教材）</p>	<p>「魚釣り大会」「回らずしにいこう！」等、他の「〜ごっこ遊び」に活動の場を広げることができる。</p>